

# 原 田 ゼ ミ ナ ー ル

## ・今年度の主な活動

月	5月	6月	7月	8月	9月	11月	2月
活動内容	友ヶ島 (和歌山)	鮎の すくい上げ (保津川) 若鮎祭り (嵐山)	Enactus (4年) ディベート大会 (3年)	うなぎ・鮎狩り体験 (犬飼川) 筏作り体験 (中之島)	合宿 (2年)	中間報告会 鮎に関する アンケート調査 (嵐山)	成果報告会

### 5月～7月の活動内容

- ・淡路島・和歌山間に位置する友ヶ島に渡り、ゴミの清掃活動、調査を行いました。
- ・堰の下で滞留した鮎をすくい上げ上流部に移送し放流する活動を行いました。
- ・若鮎祭りでは、祭りに参加された方に鮎に関するアンケート調査を行いました。
- ・Enactusは、自分たちの研究内容についてのプレゼンを行い、競い合う大会です。
- ・他大学とディベート能力を培いながら交流を深めるディベート大会を行いました。

### 8月～11月の活動内容

- ・亀岡の犬飼川でうなぎ・鮎狩り体験イベントのボランティアに参加しました。
- ・中之島「OSAKA海フェス」にて、筏作り体験のボランティアに参加しました。
- ・合宿では岡山県倉敷市を訪れ、環境に配慮した施設などを見学しました。
- ・中間報告会では、私たちの半年に渡る活動を大学内で発表しました。
- ・嵐山にて、一般の方々に対する「鮎に関する認知度」を調査しました。

## 庭 窪 ワ ン ド

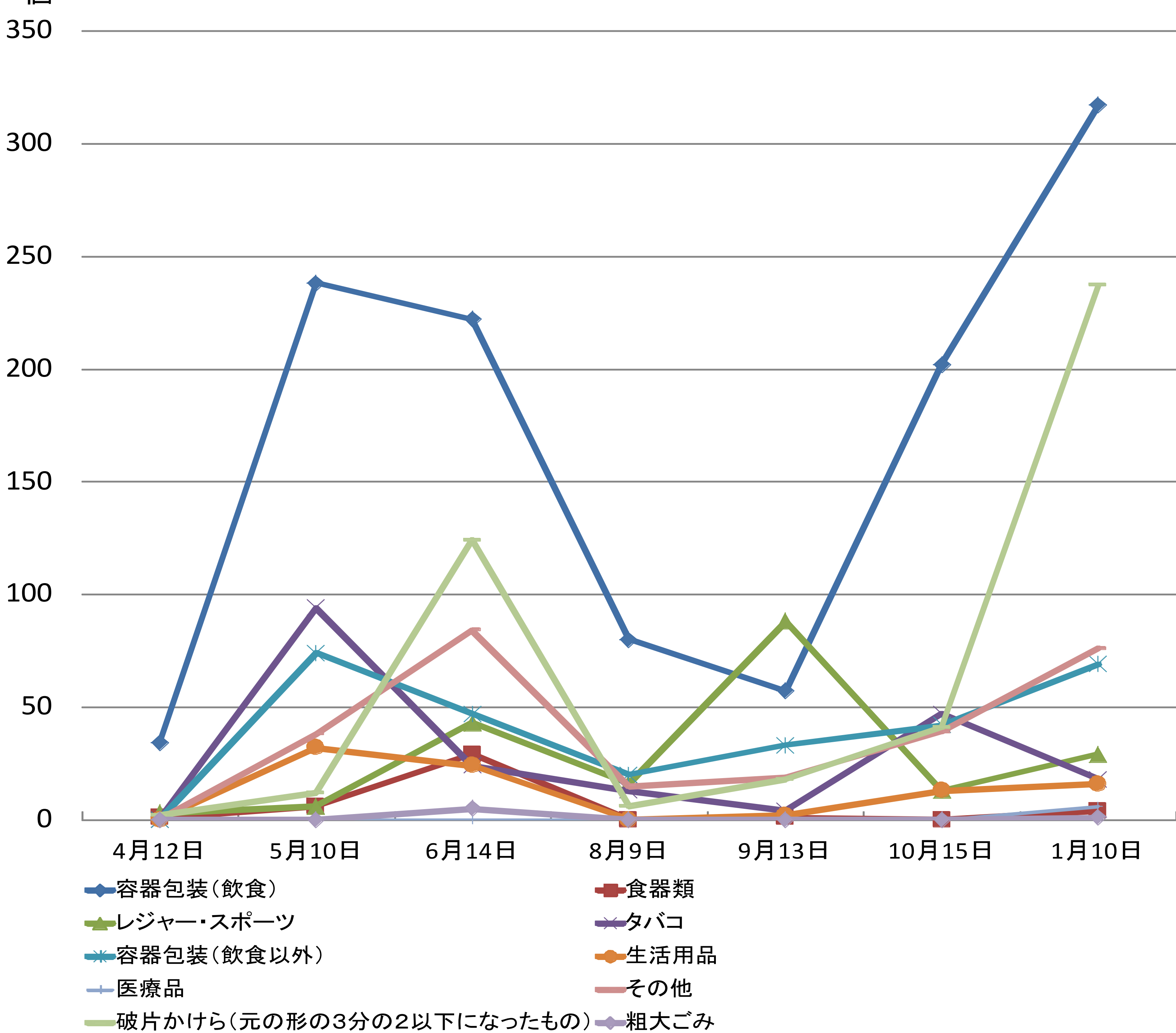
庭窪ワンドは、淀川の中流域にあり淀川本流とつながっている池のような地形の場所です。本流とつながってはいるものの本流の流れの影響がないので、イタセンパラをはじめとした多くの生物にとって暮らしやすい環境です。

**イタセンパラ**は、かつて庭窪ワンドにも生息していましたが、ブラックバスなどの外来魚に捕食されたり、外来植物が繁殖し、ヘドロになるのでイタセンパラの産卵場となる二枚貝が生息しにくい環境になってしまっていて庭窪ワンドでは絶滅してしまいました。現在庭窪ワンドの少し上流にある城北ワンドには生息しています。私たちは、淀川河川レンジャーの皆さんや地元漁師の方と庭窪ワンドで投網を使って外来生物の駆除やワンド内の清掃活動をしてきました。結果として、多くの**ゴミ**や**ブラックバス**、**ブルーギル**などの外来魚の回収に成功しました。

活動の成果として、今年の春からイタセンパラを庭窪ワンドに試験的に放流できる段階まで来ています。



2015年度海老江ゴミ調査結果



## 海老江での活動

毎月第2日曜に、淀川の海老江干潟でNPO法人**ゴミンゴ**のみなさんと一緒に清掃活動を行い、そこで回収したゴミの種類と数の調査をしています。

海老江は、淀川の下流部にあり上流から漂流して来るゴミもあり、なかには京都から流れついたものや、机・原付などの大きなものまで漂着しており、夏には花火の燃えカスや、バーベキューのトレイや炭などのゴミが多くなっています。注射針や使いかけのライター、バーベキューの時に使用したガス缶などの危険ゴミも回収することがありました。他にも釣りのゴミなどもありました。

左のグラフは、1年で拾ったゴミの種類とその数で、飲食系の容器包装が多くみられます。11月と12月は、天候が悪かったなどで中止だったため調査できていません。この1年、月に1回海老江で回収したゴミの量は、月によってゴミの量が増えたり減ったり全然違いました。ここで回収できなかったゴミは、海まで流れてしまうので、それを止めるためにゴミの回収作業をしていますが、まだ完全に止められたわけではなく、海まで流れてしまっているのが現状です。

私たちの理想としては、淀川に捨てられるゴミの量を減らすだけでなく、海に流れるゴミの量を、今よりも減らしていけるようになったら良いと思っています。また、捨てる人がゴミを捨てづらい環境に出来たら、川も海もきれいになるだけでなく、地球環境の改善や、人々の意識改善にも繋がると思います。



# 原田ゼミナル

保津川の鮎・・・今年度から、保津川の鮎についての活動を主体として取り組み始めました。

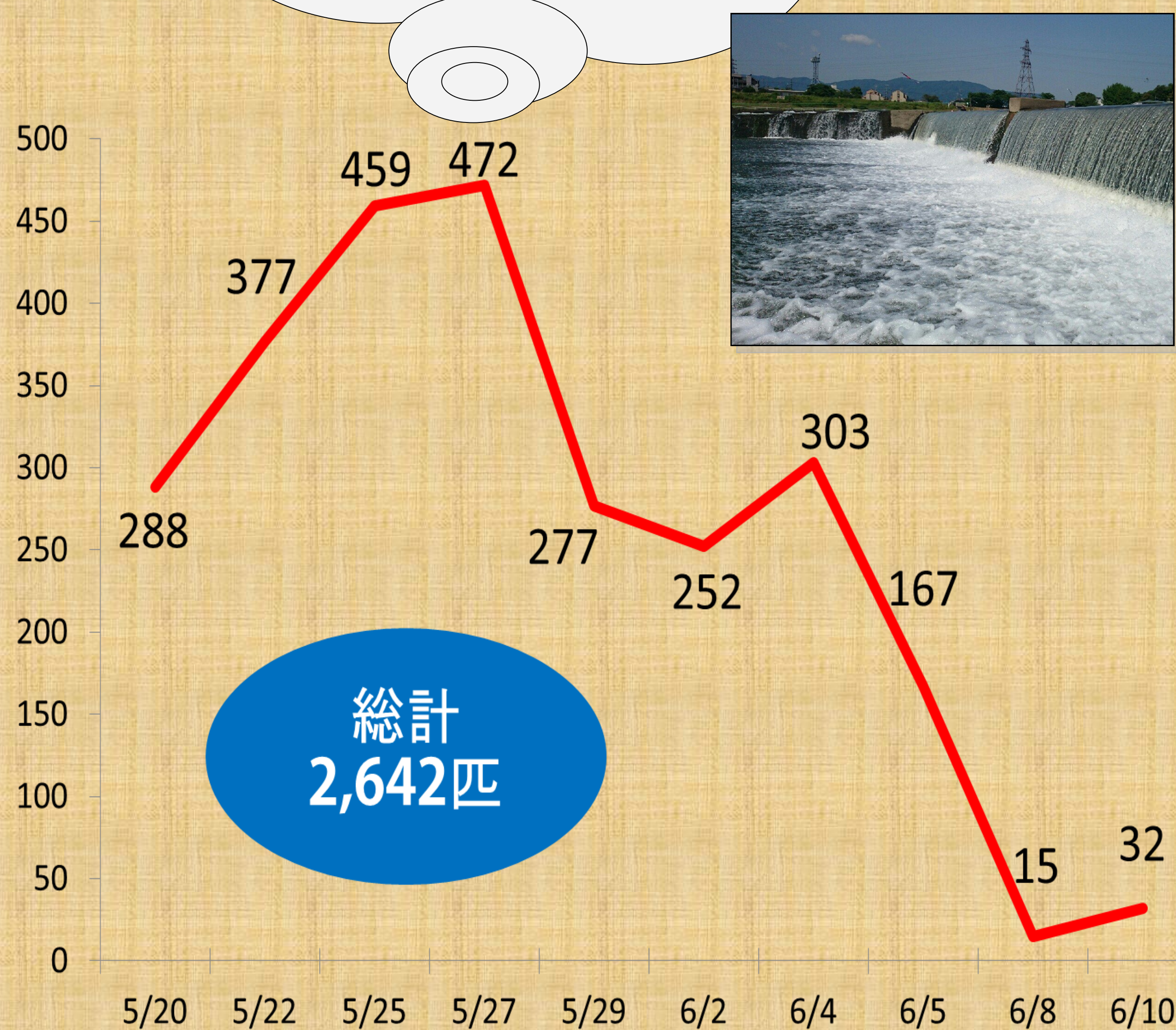
## 鮎の生態について

鮎は北海道以南から九州までと、朝鮮半島にも生息している魚です。年魚とも呼ばれ寿命は一年です。秋に孵化し川を下り、海で冬を過ごします。春から初夏にかけて川をのぼり、夏は川で過ごし秋に産卵しその生涯を終えます。鮎は夏の間、苔を食べて成長します。そのため良い苔が生えている石の周辺になわばりを持ち、他の鮎が侵入すると攻撃する習性があります。夏から秋にかけてはその習性を利用した友釣りという漁法で釣ることができます。友釣りは鮎のなわばりの石に針がつけたおとりの鮎をおくりこみ、おとり鮎に攻撃してきた鮎を釣るという漁法です。また各地域の川では独自の漁法が発達しており、かつてより日本人に親しみのある川魚でありました。



## 現在の鮎の問題

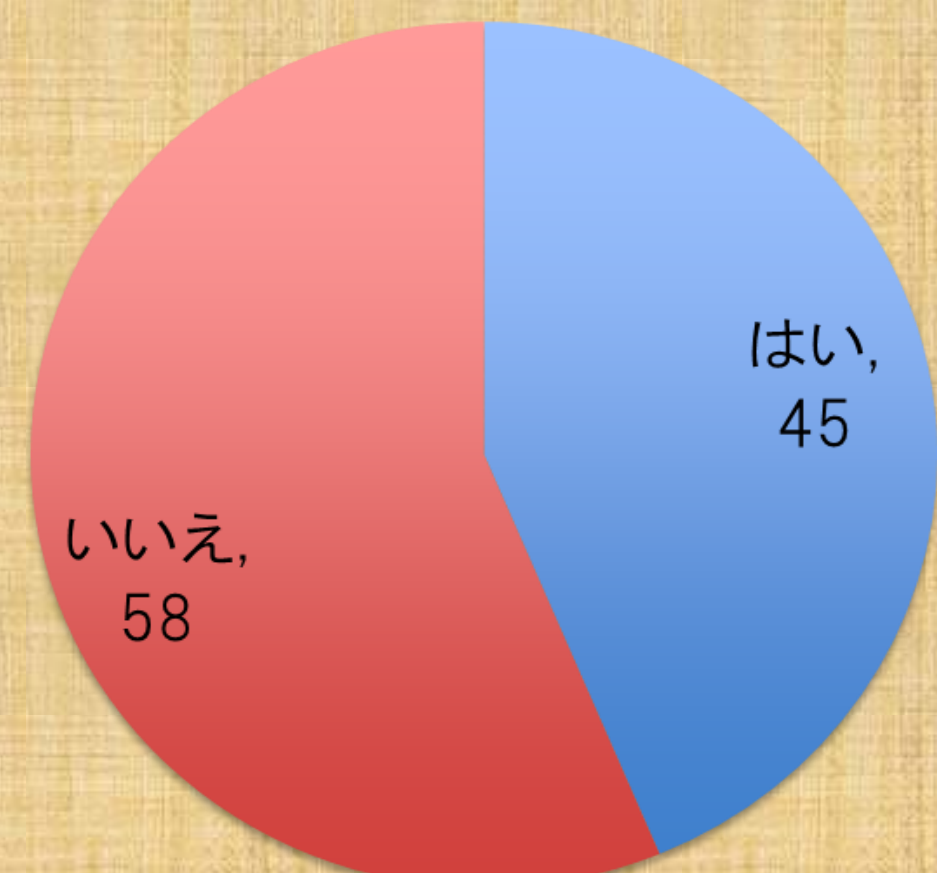
ダムや堰などの障害物により鮎が遡上出来なくなっており、ダムや堰の下に滞留した鮎たちはカワウなどの鳥類やスズキなどの肉食魚に捕食されるか遡上できず、死にます。このグラフは5/20～6/10の間におこなわれた遡上イベントで遡上させることのできた鮎の数です。これだけの数の鮎が滞留していたこととなります。



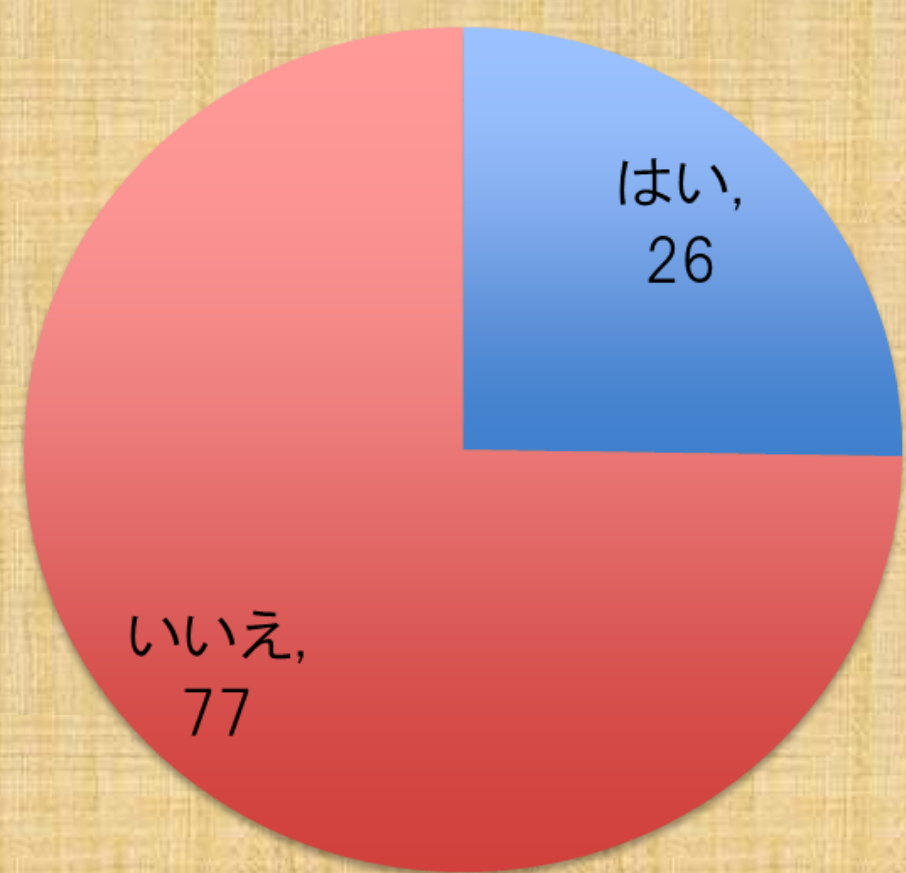
## 嵐山若鮎祭りでのアンケート調査

京都の嵐山で鮎釣りの解禁日にあわせて行われている「嵐山若鮎祭り」に参加されている方を対象に鮎に関するアンケート調査を実施しました。下のデータは各質問に関する調査結果です。

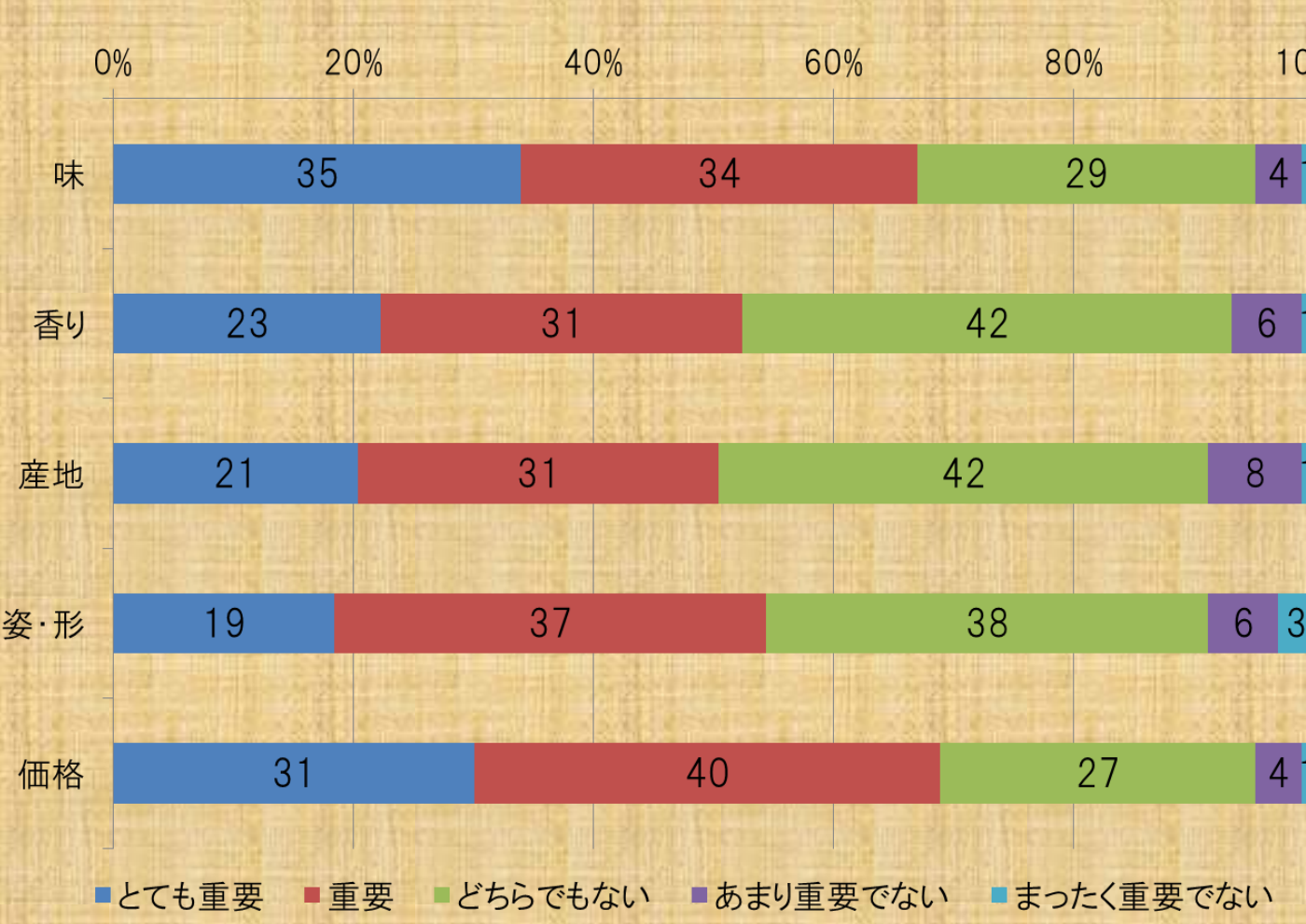
Q.大阪湾から桂川(保津川)・木津川・宇治川に鮎が戻ってきていることはご存知ですか？



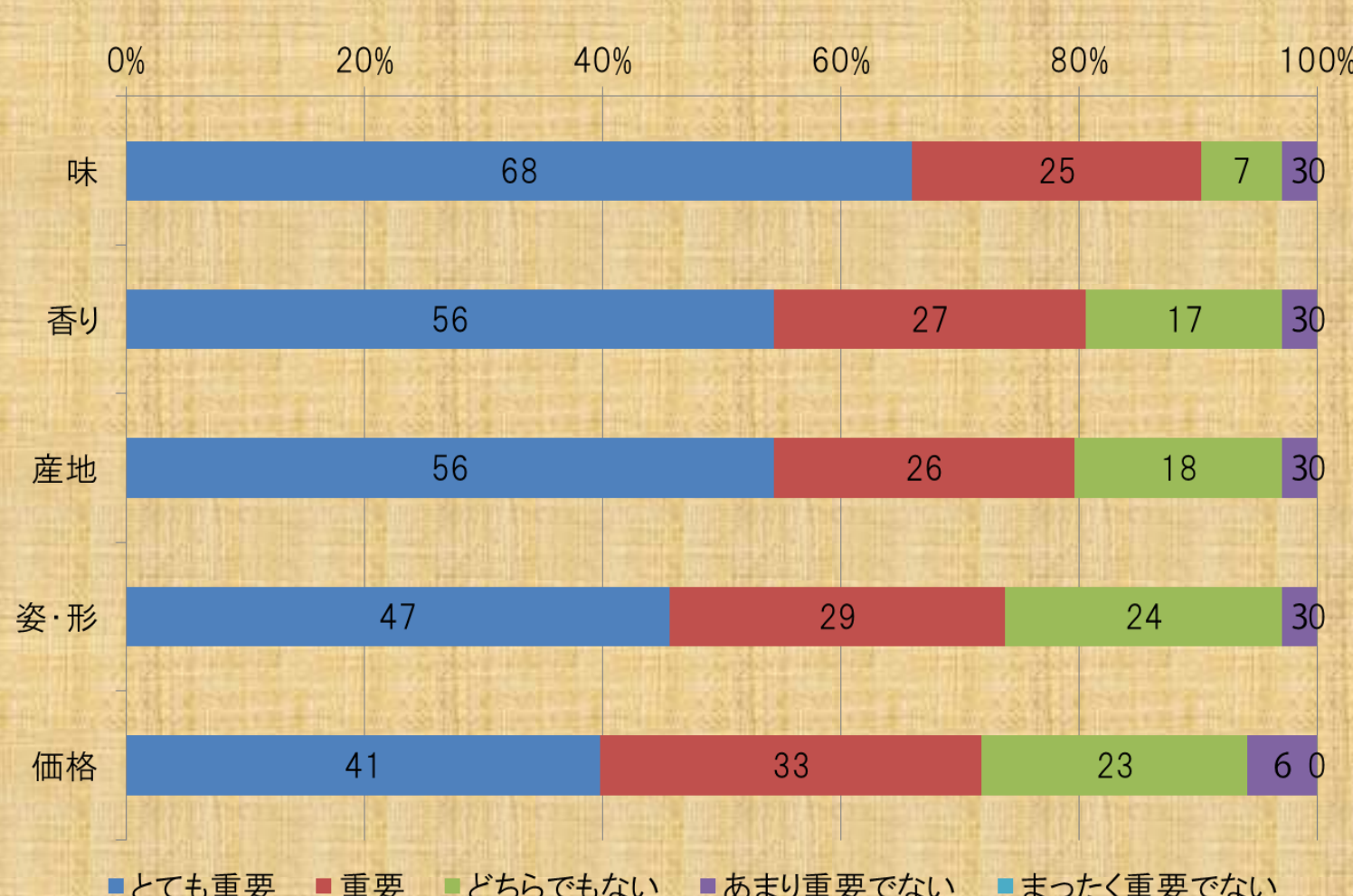
Q.桂川(保津川)の鮎は朝廷へ献上される「献上鮎」と呼ばれるなど、かつては日本の鮎と称されていたことをご存知ですか？



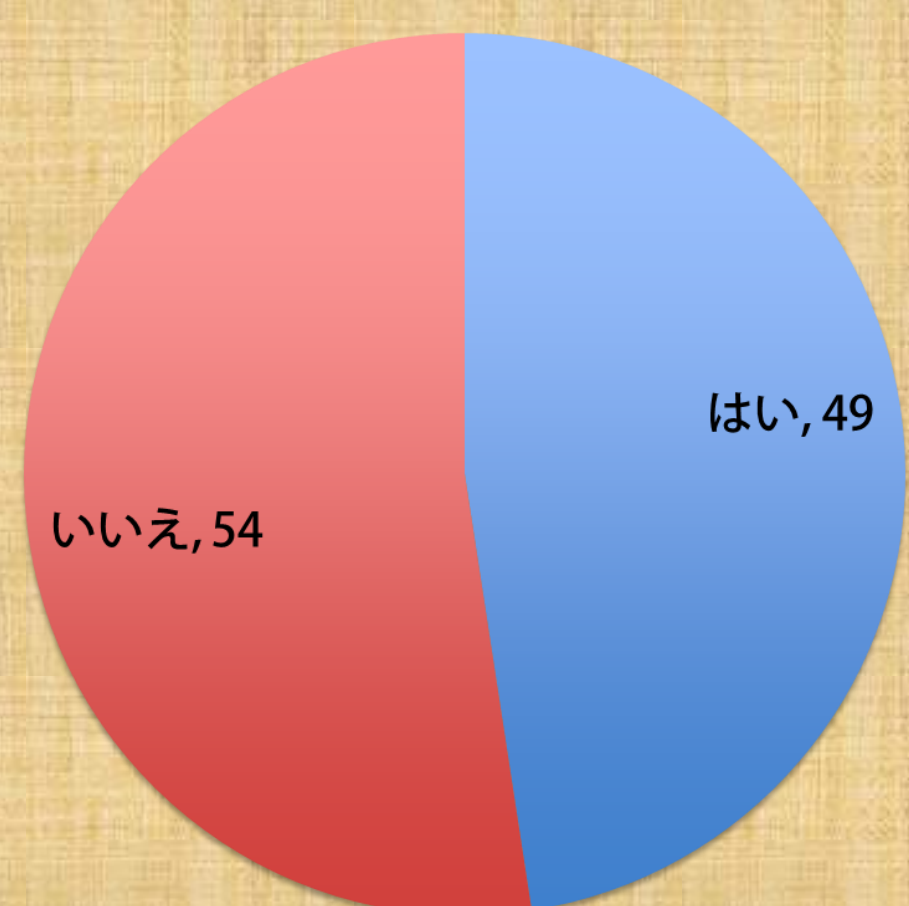
Q. 養殖鮎を購入する際、どのような点に重点を置きますか？



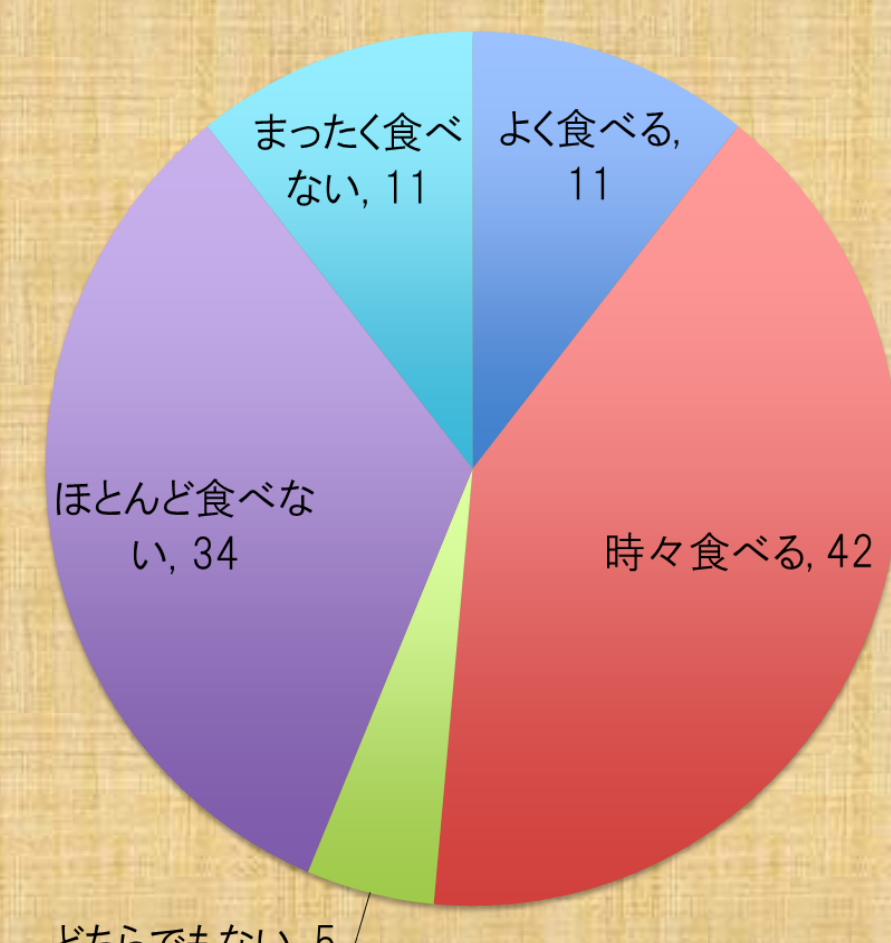
Q. 天然鮎を購入する際、どのような点を重視しますか？



Q. 桂川(保津川)や鴨川では、「天然遡上の鮎」の復活に向けた取り組みが始まっていることはご存知ですか？



Q. 普段から鮎をどれくらい食べますか？



アンケートの目的は、一般の人たちが鮎に対しての認識、興味がどのくらいなのかを知るために行いました。アンケートの集計結果をもとに鮎や現在の河川環境に関心を持ってもらうためにはどういったことをすればよいかを考えます。例えば、自然と触れ合う、河川の美化活動などのイベントを考える資料としても利用します。